



### 感染管理室からのお知らせ

9/2～9/7の6日間に4種流行性ウイルス疾患のワクチン接種を実施します。  
対象者の皆様は、案内文をご参照のうえ、スムーズな接種と抗体価の獲得に向け、ご協力のほどよろしくお願い致します。

## RSウイルス感染症と風疹

前号に引き続いて**RSウイルス感染症**を取り上げます。RSウイルス感染症は、かつては秋から冬にかけて流行する感染症でしたが、次第に流行期間が早まるようになり、2017年、2018年の過去2年間は8～9月が年間で最も流行する期間となり、2019年も同様であると推定されます。図1は2004年から2019年第33週までのRSウイルス感染症の小児科定点からの報告数の週別推移を示しています。2019年第33週は前週よりも報告数の減少が見られていますが、第33週はちょうどお盆の時期であり、過去2年間と同様にお盆明けには更に患者報告数は増加していくものと予想されます。

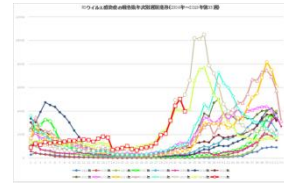


図1. 小児科定点からのRSウイルス感染症の報告数年次別週別推移(2004年～2019年第33週; 感染症発生動向調査データより)



RSウイルス感染症の**潜伏期間は2～8日**、典型的には4～6日とされています。**発熱**(軽度の場合が多い)、**鼻汁などの上気道炎症状**が数日間続き、初感染児の20～30%では、その後**下気道症状**が出現してくると言われています。感染が下気道、とくに細気管支に及んだ場合には特徴的な病型である細気管支炎となります。年長の児や成人が感染しても感冒様症状のみで終始し、RSウイルスに感染していると気付かれない場合が大半ですが、乳幼児が特に初めてRSウイルスに感染した場合は重症化して入院加療を要する状態となることも珍しくありません。乳幼児の医療、看護、育児、保育、介護に携わっている関係者の方々は注意が必要です。

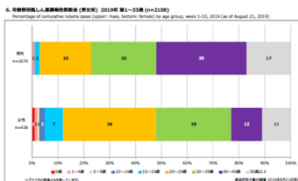


図2. 風疹の年齢群別累積報告数の男女別割合(2007年～2019年第33週; 感染症発生動向調査より)

次に**風疹**です。2018年の秋頃より始まった風疹の流行は、ほぼ1年が経過した現在においてもまだ落ち着いてはいません。2019年の累積患者報告数は、第33週までで2,108例と2,000例を超え、大阪府内の累積患者報告数は125例です。図2にある通り、男女比は約4:1と**風疹罹患者の約8割は男性**であり、男性の好発年齢は40代、30代、20代、50歳以上の順となっていることは昨年と同様です。2019年6月には、大阪において先天性風疹症候群(CRS)の児が誕生したとの報告がありました。これ以上CRSの児が生まれてきてほしくはありませんし、そのためには**ワクチンの接種を中心とした風疹対策の効果的な実行**が必要です。風疹の流行状況にはこれからもご注意ください。(感染管理室 安井良則)

## 子ども職場参観日～手洗い教室～

### 手洗い教室～手にバイキンがいっぱいいる?!～



8月17日(土)



日直  
宝田 田部

当院で夏休みの恒例行事となりました『子ども職場参観日』が8月17日(土)に開催されました。子ども職場参観日は、お父さんやお母さんの職場・職業を子供たちが見て、体験する事で、親子の絆を深め、親子・職場を笑顔にし、また将来の医療者の育成を図ることを目的として企画されています。今年は、計10名のお子さんが参加され、「手洗い教室～手にバイキンがいっぱいいる?!～」というテーマで、手洗いに関する簡単なお話とブラックライトを使った手洗いの演習を行いました。一番の盛り上がりは、ブラックライトを使った手洗いの演習でした。私の「いつも通りの手洗いしてきてね～」に対して、なかなか帰ってこない子どもたち…。中には「3回洗ったよ!笑」と自信満々に話してくれる子もいました。最後には、いっぱい菌の生えた自分達の手型を見て、手洗いの大切さを知ってもらえたのではないのでしょうか。30分という限られた時間でしたが、終始元気な声が飛び交い、子ども達と一緒に楽しい時間を過ごすことができ、私自身たくさんの笑顔と元気をもらいました。(感染管理室 川口尚子)